

【巻頭言】

立教大学日本学研究所は、総合大学である本学の特徴を生かし、日本学に関するあらゆる分野の研究を発展させるとともに、国内、国外の日本学研究を促進し、学术交流の実現に寄与することを目的として設立され、活動しています。

本号には、近世日本における偽史言説を対象とした二〇一五年度公開シンポジウム「近代日本の偽史言説―その生成・機能・受容―」の開催概要と発表要旨を掲載し、黒板勝美をめぐる史学史の新たな研究動向をふまえて今後の研究の可能性を探った国際シンポジウム「史学史上の黒板勝美―日米における新たな研究動向―」について特集しました。

また、昨年度、日本学研究所は二回の研究例会を開催しました。「近世文芸の生成・享受・展開―今後の研究に向けて―」では、文学や史学といった学問領域、近世、近代などの時代領域を横断した多様な観点から問題提起し、議論しました。また、「海外の日本文化研究―その動向と可能性―」においては、本学への留学生による研究発表にくわえ、海外各国における日本文化研究の動向や関心についても報告がなされ、世界における日本文化研究の今後の方向性や可能性について考えました。

本研究所の目的達成のため、今後も多彩なシンポジウム、研究例会を企画し、本誌の更なる充実を目指してまいります。一層のご支援をお願いいたします。

二〇一六年八月

立教大学日本学研究所 所長

水谷隆之